



このヒストリアでは、田検小学校にまつわる人物や昔の出来事における、今まで知られていなかったエピソード（秘話）にスポットを当てて紹介しています。

私は、それらのことを知ることも、子どもたちの「心を耕す」ことに必ず役立つと考えているからです。

## 1 子どもたちは『ヒストリア』をどう感じ、何を思っているのでしょうか？

1週間ほど前のことです。校長室に5年生の子どもたちを誘い、本校の校章や校歌のことなどをヒストリア1～3号を使って解説した後のことでした。

子どもたちが感想を発表したり書いたりしてくれましたので、その一部を紹介しましょう。

- 『ヒストリア』で学校の歴史が分かります。校歌にはこんな意味（歌詞）が書かれていたのかと思って、驚きました
- 「校歌の1番の『強く、正しき、心もて』のところがすごいと思いました。自分の好きな言葉になりました
- 「校歌の2番が自分の心にグサツとききました。『理想は薫る』が、理想とする姿の実現をめざすという意味だと知ったからです
- 「ヒストリアには、昔の田検小学校のことが書いてあるから、昔の学校の様子が少しだけ自分の頭の中に浮かんできました」
- 「田検小は、すごく歴史のある学校だと知ってびっくりしました。自分たちも校長先生が話されたように『勉強の時には黙る』『フォーム（姿勢）をよくする』に気を付けて集中力を高めていきたいです」
- 「校長室の隅々まで見せてもらって、田検小学校の歴史を感じ取りました。自分が大人になっても集中力や姿勢（フォーム）のことを生かしたいです」

校章や校歌一つを取っても、子どもたちは、こんなにも豊かに感じ取ることができるのです。

この学校で学んだ遠い昔の先輩たちの姿に思いを馳せたり、「自分も（自分たちも）（自分が）・・・」などと、自分のこととして将来を見据えたりすることだってできるのです。

「心豊かな人間を育てること」は、私たち大人の使命です。ましてや教師であれば、様々な教育活動の中で意図的にその方向付けをしていかねばなりません。

様々な角度や方向から、子どもたちが飽きることがないようにアプローチを絶えず工夫していくことも大切なのです。

「自分たちの学校を好きになりなさい」「故郷のことを大事に思いなさい」「先輩を敬いなさい」なんて、直接的な言葉を何度繰り返したとしても、「分かりました。好きになりました。大事にしています。尊敬しています」と、心から沸き上がる言葉としてそう言える人は少ないのではないかと考えています。

私にとってこの「ヒストリア」は、普段の勉強とは違う視点から子どもの「心を耕し」、それによって沸き上がる思いや腑に落ちる思いを抱かせようとしている、いわば教材の一つなのです。

「へえ～、そうだったのか」「すごいなあ～」「じゃ、自分たちは・・・」こういう言葉を大事にしたいのです。それらが幾つも重なったり、つながったりしていくうちに、子どもたちの心の中に、いつの間にか愛校心や愛郷心、真の思いやりや優しさ、未来への使命感や責任感が育ってくれるものと期待しているのです。

## 2 昭和31年の「学校要覧」には・・・(57年前)

ガリ版の赤茶けたページに歴史の重みを感じます。先日逝去された玉利博和先生（芦検）が27歳の青年教師として本校で活躍されていた頃です。

「本校児童の望ましい姿」という項が立てられ、次のように書いてあります。（下線は福田が引きました。）

- イ みなりがさっぱりして、礼儀正しい子供
- ロ 自分から進んで勉強する、わかるまで調べる熱心な子供
- ハ 責任が強く、せねばならないことは必ず実行してやりとげる子供
- ニ 何時でもどこでも、誰にでも自分の思っていることを上品な言葉で話せる子供
- ホ 人の意見はわかるまで聞き、互いに力を合わせる仲の良い子供
- ヘ 良い事や納得した事は進んでまじめに実行する子供
- ト 言う事、思っている事、やる事が常に一致する子供
- チ 何時も、にこにこして素直な子供
- リ 良く考え、まじめに批判する子供
- ヌ 働く事を楽しみ、頭を働かせて仕事がきれいにはかどる子供
- ル 何事も他人と力を合わせる子供
- ヲ 親切でやさしく、誰とでも仲良く出来る子供

「上品な言葉」「まじめに批判」「頭を働かせて仕事」。なるほど！今、十分とは言えない視点かもしれない。次号もS31年版「学校要覧」から（文責：福田裕生）